

■公・民・学連携のまちづくり拠点

「アイランドシティ・アーバンデザインセンター(UDCIC)」

の取組み

アイランドシティ・アーバンデザインセンター
副センター長 大谷直己

1. はじめに

アイランドシティは福岡市の東区に位置し、陸海空の交通結節点が半径 10km 圏内にある立地特性を活かしながら、21 世紀の先進的なモデル都市として新しい「みなとづくり・まちづくり」の推進を目的に、平成 6 年より総面積 401.3ha の埋立事業として開始された。その内の 191.8ha を占めるまちづくりエリアにおいては、平成 17 年のまちびらきから 9 年を経て現在人口約 5,900 名、約 1,900 世帯のまちに発展している。今後の開発・土地分譲は平成 39 年度まで続き、最終的には居住人口 18,000 人、就業人口 18,000 人の都市に成長する計画である。

こうしたなか、福岡市が基本構想で掲げる都市像「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」の一翼を担うアイランドシティのまちづくりにおいては、「公・民・学」の多様な主体がともに考え、



写真1 開発が進む現在のアイランドシティ

推進する連携組織として「アイランドシティ・アーバンデザイン協議会」を設立し、そのまちづくり活動の拠点として「アイランドシティ・アーバンデザインセンター (UDCIC)」を設置し、「公・民・学連携のまちづくり」・「洗練されたアジアのモデルとなる都市づくり」に向けて果敢にチャレンジしている。

2. 公・民・学連携のまちづくりを担う組織

「アイランドシティ・アーバンデザイン協議会」

アイランドシティでは、これまでになく魅力あるまちづくりを推進するため、行政のみならず、住民や企業、知的活動の担い手となる大学等の様々な視点や発想を取り入れることを目的に、「公・民・学連携のまちづくり」の考えのもと先進的なモデル都市づくりを積極的に推進する連携組織「アイランドシティ・アーバンデザイン協議会」を平成 24 年 10 月 28 日に設立した。

この協議会では、「公」・「民」・「学」の 3 つのセクターが、様々な場面で臨機応変につながり、連携・協働してアイランドシティのまちづくりを進めていくものである。その「公」・「民」・「学」は、それぞれ以下の役割を担う。

- ・「公」: 行政等による地域社会に必要な公的サービス。
- ・「民」: 住民や企業などによる地域の活力と魅力を向上させる活動。
- ・「学」: 大学などによる専門的知識や技術を活かした先進的な活動。

アイランドシティ・アーバンデザイン協議会の構成

公	福岡市	アイランドシティ整備事業及び施設整備の事業主体
	照葉校区各種団体協議会	地元の住民組織
民	アイランドシティ立地企業等連絡協議会	アイランドシティのデベロッパー・関連事業者
	博多港開発株式会社	アイランドシティのまちづくりエリアの事業主体
学	九州産業大学	東区に立地する大学
	九州大学	東区に立地する大学
	福岡工業大学	東区に立地する大学
	福岡女子大学	東区に立地する大学

図1 アイランドシティ・アーバンデザイン協議会構成

現在、協議会は、「公・民・学連携のまちづくり」の趣旨に賛同する以下の8つの団体により構成されているが、アイランドシティの街の形成、都市活動の進展にあわせ、企業、大学等の多くの団体の参画を今後呼びかけていく。

3. 公・民・学連携のまちづくりのテーマと活動指針

「洗練されたアジアのモデルとなる都市づくり」

アイランドシティは、アジアとの文化・経済の交流を通じて発展してきた福岡の歴史と国際性に基つきながら、博多湾の自然の中に創造された島形式としての利点を活かし、旧来のアジアのイメージを払拭した新しいアジアの都市社会を形づくることのできる数少ない日本のモデルになり得る都市である。

このアイランドシティがもつ潜在的なポテンシャルを活かしつつ、自然と人工が融合した環境や自然観を基本としたアジアの先進的なデザインやテクノロジーを体現、賢く生活に取り込んでいく都市社会の実現を目指す事を目的に「洗練されたアジアのモデルとなる都市づくり」をまちづくりのテーマとした。また、アイランドシティでは文化的で健康的なライフスタイルや高いレベルの教育・産業・文化を創出し、持続的な生活をエンジョイできる都市社会の実現にも果敢にチャレンジしている。

これらを、前述した公・民・学の連携組織の活動により具現化するため、「まちづくりの活動指針」として以下に8つの目標を定めた。同時に、目標ごとの具体的な取り組みの方向性を定め、現在 UDCIC を拠点に様々な活動を行っている。

- ・目標1 環境と共生するまちづくり
- ・目標2 健康長寿のモデル都市づくり
- ・目標3 みんなで参加するまちづくり
- ・目標4 新たな産業と文化の創造
- ・目標5 サステナブルな交通システム
- ・目標6 洗練された美しい街並みの形成
- ・目標7 魅力的な水辺・港空間を活かしたライフスタイル
- ・目標8 アジアの成長・活力を取り込み、アジアや世界とつながる拠点づくり



写真2 まちの学校実施風景（まちづくり活動）



写真3 まちづくり WS 実施風景（まちのデザイン研究）



写真4 屋外集客イベント実施風景（情報発信・プロモーション）

4. 活動を担う拠点

「アイランドシティ・アーバンデザインセンター」

前章までに述べた活動を具体的に実践・推進するため、「アイランドシティ・アーバンデザイン協議会」のもとに、「アイランドシティ・アーバンデザインセンター（以下、UDCIC）」は平成24年10月に開設した。まちづくり活動の拠点UDCICは、行政・住民・企業・大学など、「公・民・学」の多様な主体（協議会構成団体等）が連携・協働し活動を行うための拠点施設であると同時に、「開かれたまちづくりの場（プラットフォーム）」でもある。多様な主体が集うUDCICにおいては、アイランドシティのまちづくりの「シンクタンク」「ドゥタンク」として、常駐の専門スタッフとともに、主に以下の活動を主として先進的なまちづくりに取り組んでいる。

・まちづくり活動

アイランドシティのまちの主役となる住民や立地企業がまちづくりに関心を持ち、まちづくりに関わるきっかけとなる事業や新たなコミュニティづくりを図るための事業の実施・支援。

・まちのデザインの研究・提案

まちづくりのシンクタンクとして、行政をはじめとした関係主体の対話や協働を通じた、魅力的で創造性のある都市空間・公共空間の形成に係る調査・研究。

・大学や企業による実験・研究

大学・企業の創造的志向、先端の技術・理論等をアイランドシティの先進的なまちづくりに繋げていくため、アイランドシティをフィールドとした実験・研究等の実施・誘致。

・情報発信・プロモーション

広く社会や市民に向けたアイランドシティのまちの魅力や先進的な取組みの各種媒体やメディアを通じた情報発信や、まちの魅力を直接体感してもらうイベントの実施・誘致。

5. おわりに

以上、目下のアイランドシティにおけるまちづくりの構想とUDCICの取り組みを紹介した。まちづくりエリアを中心に、UDCICは活動を開始し2年が経過したばかりであるが、住民の自律した新たなコミュニ

ティ活動の萌芽や、多様な主体によるまちの愛称づくり及びサインデザイン等への取り組みが始まるなど徐々にではあるがその成果が見え始めたところである。また、今年のみちびらき10周年を期にその活動はより一層活発になる事が想定されている。一方で、まちづくりエリアの中でも既に開発されまちとして今後成熟に向かうエリア（博多港開発工区、97.2ha）と今後新たに開発されるエリア（福岡市5工区、94.6ha）の進展に伴う都市活動の変化に対応した取り組みや活動が今後の課題として求められている。

(2015年2月入稿)

第6回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成27年2月6日（金） 15:00～16:30

場所：天神重松ビル3階301号室

出席者：外井哲志、坂井猛、橋本信幸、吉武哲信、天本徳浩、伊東博史、内田智昭、辰巳浩、大枝良直、趙世晨、堤昌文、永村景子、日暮光一郎、箕浦永子（14名）

議事内容

1. 前回議事録の確認（吉武）

・事前メール審議に基づき、前回の会議内容を確認した。

2. 九州まちづくり賞の応募状況報告および表彰(案)(趙)

・資料に基づいて九州まちづくり賞選考結果報告がなされた。

・応募7件中、3件は参考資料無し(1件)および学会員の推薦無し(2件)のため、選考対象外となった。また取組みは評価できるが、タイトルと内容の相違等により授賞候補外となった。

・授賞候補3件を表彰する方向で承認された。

・リノベは他の賞と被らない点を評価し、産官学の取組みとして、実績の多いまちづくり事業として評価された。

3. 平成27年度新規研究分科会の結果(案)(堤)

- ・資料に基づき、応募および審査結果の報告がなされた。
 - ・応募期間を延期し、再応募締切1月16日(金)にて1件の応募があった。評点が低く、採択すべきかどうか、審査委員会の判断が出来なかったため、審査結果の取扱いに対して、審査委員会より提案1および提案2がなされた。
 - ・2月17日までに事業予算計画を本部に伝えなければならぬ。
 - ・具体的に何をやるのかが見えづらい、メンバーが少ない、というのが評点が低い要因である。
 - ・審査委員長名で提案書の書き直し提出を行う。2月10日(火)〆切、2月14日(金)までに採否を決定する。
4. 平成26年度支部主催シンポジウムの実施報告(箕浦)
- ・資料に基づき、支部市主催シンポジウムの報告がなされた。
 - ・参加者は各行政、民間企業、学生など幅広い参加があり、計86名であった。
 - ・シンポジウム報告書は、登壇者の承諾を得られれば支部ホームページに掲載する。
5. 支部活動の検討;支部研究発表会の検討ほか(吉武)
- ・支部研究発表会の実施について、資料に基づいて説明がなされた。
 - ・午前中に大学院生を対象とした研究報告会を実施し、午後は例年通りポスターセッションを実施する。ともに優秀発表賞を表彰する。平成27年度は試行的に実施する。
6. 平成27年度支部総会および総会資料(案)(永村)
- ・資料(案)に基づいて、総会議案の確認が行われた。
 - ・支部発表会は、第4号議案に研究活動報告の実施を記載する。
7. 九州支部報告会(ポスターセッション)の実施(大枝)
- ・資料に基づいて研究発表会の募集要項(案)及び当日スケジュール案の説明がなされた。資料の誤植→日時は4月4日(土)開催。P.12に「日」が抜けている。
 - ・表彰者は支部HPにポスターを掲載する。
 - ・口頭発表は発表件数を上限8件とする。8件を超えた場合は、応募者の年長者を優先する。報告会に漏れた場合はポスターセッションの案内をする。
 - ・口頭発表のエントリーシートにタイトル・アブストラクトを入れておく。漏れた場合のPS参加希望も記載する。
 - ・発表はパソコンを用いたプレゼンテーションを実施する。
 - ・ポスターセッションの審査を懇親会に実施しないで済むよう、事前に案内しておく。
8. 「支部ニュース」(1月分 No.73)(箕浦)
- ・当初の予定よりも原稿提出が早かった福岡市の事例を1月号に掲載した。1月号に掲載予定であった原稿は遅着であったため、関係者に承諾を得たうえで4月号に掲載することとした。
9. 「支部だより」(2月分、報告)(永村)
- ・資料に基づき、本部に提出済である支部だより2月号の報告がなされた。
10. 名義後援(吉武)
- ・資料に基づき「明日の建築と都市展」の名義後援について期間延長依頼があり、承認された。
 - ・メール審議にて「景観研究センターシンポジウム」の後援承諾の報告がなされた。
11. 会計報告(内田)
- ・資料に基づいて現状の報告がなされた。
12. 理事会報告(1月23日分)(橋本)
- ・平成26年度第8回理事会(1/23)の資料を用いて報告がなされた。
13. その他;学会賞(功績賞・国際功労賞、名誉会員)の推薦について(外井)
- ・候補者・推薦者がある場合は外井支部長まで連絡願いたい。

■支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。各種イベント(シンポジウムや講演会等)のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【公益社団法人日本都市計画学会九州支部事務局】

TEL& FAX : 092-802-3435

E-mail : cpj-q@doc.kyushu-u.ac.jp